

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号		TEL 092-663-8119
自己評価作成日	令和02年03月05日	評価結果確定日	令和02年03月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和02年03月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分の親もここで看たい。そう思える介護」を理念に掲げ、平成17年の開設以来、地域の温かい理解のもと中学校や小学校、保育園との交流を欠かすことなく運営している。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「あざみ苑」は、幹線道路沿いのバス停前の利便性の良い商業地区の中に位置し、2階建て定員18名のグループホームである。保育園や地域の子ども会、小学校との交流を継続し、「認知症キッズサポーター養成講座」を開催して、認知症の啓発活動に取り組んでいる。ホームドクターによる往診体制が整い、訪問看護師と介護職員が協力して、安心の医療体制が整い、これまでに数名の看取りを行っている。利用者が食べたい物を聞きながら、職員が交代で作る美味しい料理を、利用者と職員と一緒に食べる様子は楽しそうで健康の源になっている。「自分の親をここで看たい...そう思える介護」を目指す苑長と職員が一つにまとまり、利用者一人ひとりに寄り添い、究極の介護を目指す、グループホーム「あざみ苑」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員で理念の共有は出来ており事あるごとに話題にし、実践できる様心掛けている	開設時に職員で話し合って作成した、7つの項目からなる理念を見やすい場所に掲示し、職員会議の中で理念を振り返り、共有に努めている。「自分の親もここで看たい」そう思えるグループホームを目指し、日々職員の努力が続いている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園や学校、子供会との交流は恒例となり、利用者も子供達も楽しみにしている	保育園、小・中学校、子ども会との交流を継続して行い、認知症キッズサポーター養成講座を開催して、認知症の啓発活動にも取り組んでいる。また、利用者と職員は、近隣への買い物や散歩時に挨拶を交わし、話をする機会も多く、地域と信頼関係が築かれているホームである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、地域の小学校の3年生との交流会を行っており、その際事前に施設長が学校に出向き認知症についての話をして利用者との接し方を学んでもらっている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は人員不足で時間的な余裕もなく運営推進会議は開催できていないが、地域行事には積極的に参加している	今年度の開催はないが、会議は定期的にホームの状況や活動の報告を行う事や、会議の中で得られた意見や要望、情報等をサービスの向上に活かしていく事が重要である事を認識し、参加委員を募り、定期的な運営推進会議の開催を検討している。	利用者や家族、民生委員、地域代表、地域包括支援センター職員等の参加を要請し、ホームの運営や取り組みを伝え、情報交換しながら、地域貢献に繋がる会議の開催(年6回)を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターに空室状況などの情報をお知らせし、入居者の紹介をさせていただいたり、包括支援センターからの要望があれば相談に乗っている	行政主催の研修や行事に参加し、生活保護課ともやり取りを行い、協力関係を築いている。管理者は、行政窓口空き状況や事故等の報告を行い、介護の疑問点や困難事例を相談する等、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠をはじめ身体拘束については職員全員が理解し実践している	職員会議や勉強会の中で、身体拘束の確認を行い、言葉や薬の抑制も含めた拘束をしないケアに取り組んでいる。また、具体的な禁止行為について事例を挙げて話し合い、「身体拘束をしない・させない」ケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修へ参加し、話し合いの場を設け防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方も居るので職員は役割なども理解できている	現在、制度を活用中の利用者があるので、職員は後見人とのやり取りを通して、制度についての理解を深めている。また、資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、制度の内容や申請方法などを説明し、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際はご家族の不安や疑問点が残らない様に書面に加え事細かく説明するようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が面会に来られた際には安心してなんでも話せる様努めている	職員は日常会話の中から利用者の意見や要望を聴き取り、家族面会時や電話等で、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。担当職員から利用者の近況報告の手紙と、「あざみだより」を毎月家族に送付し、家族の安心に繋げている。	以前行われていた家族会を復活し、家族同士や家族とホームの交流、親睦を図り、意見や要望を言いやすい関係作りへの取り組みを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングの時間を設けておりその際出た意見や提案はみんなで話し合い、改善すべき点は対応している	職員全員参加のミーティングを月1回18時から開催している。2時間から3時間、時間をかけて話し合い、情報を共有し、ケアの統一を図っている。出された意見や要望、心配な事等を速やかに対応し、ホーム運営や業務改善に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の身体状況や生活環境に応じて無理の無い様な勤務時間を設定し、働きやすい環境、条件になるよう努めている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用に当たっては年齢や性別、経験は排除理由になるとは思っておらず本人のやる気や元気を重視している	職員を大切に育む苑長の考えの下、子育て中の職員への配慮等、職員一人ひとりの事情を汲んだ勤務体制を整え、職員の定着に繋げている。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄を優先し、採用後は研修や現場での指導を受けて、介護の知識と技術の習得を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加し、レポートやミーティングの際に発表してもらい皆が理解できるように努めている	外部の人権研修に職員が交代で参加し、利用者の人権を守る介護のあり方を理解して、言葉遣いや対応に注意し、利用者がホームの中で安心して暮らせる支援に取り組んでいる。また、職員は常に理念を意識し、利用者が自由に明るい笑顔で暮らせるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の弱点を把握しておりスキルアップできる様に研修等への参加を促している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは適宜情報交換を行っている		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に必ず面談に伺いご本人、ご家族と直接お話しし安心して入居できる様努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族から出来る限り詳しく状況をお聞きし、不安や疑問、要望を伺いながら施設としての役割や出来る事と出来ない事も説明し信頼関係が築ける様努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際はご家族と一緒に利用者の理解度や認知症の程度に応じた対応を考え実践している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者個々に合わせその方のペースでお手伝いなどしてもらっている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	基本的に内科と歯科以外の病院受診はご家族にお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人、知人や親戚関係の方等の面会は受け入れている	職員は利用者の馴染みの関係を把握し、行きつけの理・美容院への同行や、家族の協力を得て病院受診等、利用者の馴染みの関係継続に取り組んでいる。家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、寛げる雰囲気をつくり、何時でも面会出来る支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	危険な時以外はそっと見守り利用者同士助け合いながら日々暮らしていっている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も季節ごとの挨拶のお手紙は欠かさずことなく続けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意思を伝えられる方には必ず希望を聞くようにしており、意思表示が困難な方は日頃の表情等から読み取り本人本位に検討している	職員は日常会話の中から、利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して実践に繋げている。医師を伝えることが困難な利用者には、家族と相談し、職員間で話し合い、利用者の様子を察知して、思いを汲み取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や家族環境を把握し、それぞれに合ったサービスの提供に努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝顔を見ながら健康チェックしその時のその方の状態に合わせた介護を心掛けている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時には、担当者会議で他の職員の意見を聞き介護計画を作成している	担当職員は、利用者や家族の希望を聴き取り、カンファレンスで職員の意見や気づきを出し合って話し合い、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎に作成している。利用者の重度化や状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護日誌に詳細に記録し新たな気づきやケアは申し送りノートを利用し情報を共有している		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が必要としているサービスが受けられるよう、家族と相談しながら支援している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は恒例行事となっており、利用者先方共々喜ばれているので、お互い支え合っている関係が出来ていると思われる		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を最優先している。また、各医療機関とも密に情報交換できている	入居時に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決定している。月2回の協力医療機関の往診と病院の看護師、週1回の訪問看護師、ホームの看護職員の連携で、24時間安心の医療体制が整っている。現在は、利用者全員がホーム提携医を主治医としている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の細かい変化に気づいた時は、苑内やかかりつけの看護師に相談し必要に応じて往診してもらったり専門医を受診している		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際は出来るだけ面会に行き病院関係者から本人の状態を聞くようにしている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「看取り」についての説明を行い、実際に「その時」を迎えた時に改めて医療機関関係者も同席の上話し合いの場を設けて再度意思確認をし看取り介護に取り組んでいる	契約時に、ターミナルケアについて、ホームの方針を説明し、利用者や家族の希望を聴いている。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と常に連絡を取りながら方針を確認し、安心して最期まで過ごせる支援体制を整えている。これまでに数名の利用者の看取りの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルはいつでも見れるところに備えており適宜確認している		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣住民や隣接する会社と共に避難訓練を行い、災害時の応援協力を仰いでいる	地域の協力和消防署の指導(年1回)を得て、昼夜想定 の避難訓練を年3回実施している。通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所の確認を行い、利用者が安全に避難出来るように取り組んでいる。また、災害時に備え、非常食や飲料水の備蓄を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に応じて声掛けなども工夫し、プライバシーを損ねない様に配慮している	職員会議の中で、利用者のプライバシーを守る介護について、話し合い、職員は、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮し、言葉遣いに注意し、利用者のプライドや羞恥心を大切に介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務についても、職員間で話し合い周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる利用者にはその都度どうしたいか尋ねたり選択肢の中から決められるよう働きかけている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調や気分を最優先し過ごして頂ける様支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った髪型や服装を考え、またシミや汚れ匂いには常に気を配っている		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事を提供している。これまでは職員も一緒に頂くようにしていたが、食事介助が必要な利用者が増えたため食事の場に職員はいるが食べるのは別々になっている。	利用者の状態に合わせた食事形態での提供や好き嫌いへの配慮をしながら、利用者が食べたい物を聴き取り、ユニット毎に献立を考え、職員が交代で作る美味しい料理を提供している。利用者と職員がテーブルを囲んで座り、談笑しながら同じ料理を食べる家庭的な食事の時間である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量がなかなか確保できない利用者には声掛けや水分の種類を変えて出来るだけ一日の目標摂取量に近づけるように努めている		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後必ず行いご自分でできない方は職員が介助し清潔を保つようになっている		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し時間ごとのトイレ誘導を徹底し、不快にならない様支援している	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、重度化してもトイレで排泄する事を基本とし、早めの声掛けや誘導を行い、利用者の負担をなるべく減らせるように試行錯誤しながら、排泄の支援を行っている。また、夜間は安眠重視で、パットを併用する等してゆっくり休めるよう配慮している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便には常に気を使いそれでも便秘になったら利用者に応じた様々な工夫をしている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その時の気分や体調に応じて楽しく入浴できる様支援している	入浴は、利用者の希望や体調に配慮して、香りの良い入浴剤を入れる等、入浴が楽しめるように工夫しながら支援している。入浴は利用者と職員が一对一でゆっくり会話が出来る時間と捉えている。入浴を拒む利用者には、時間を変更したり、職員が交代して声掛けする等して、無理強いのない支援を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態に合わせて臥床時間を設けたりしている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各利用者の薬の内容については全職員が把握し、変更があった場合は申し送りにて周知できる様になっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知症の進行と共に出来る事が少なくなってきてはいるが、その中でも出来る事を大切に、楽しみや気分転換になるよう支援している		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	ADLの低下により外出が難しくなってきた方が増えているが、外出できる方はご家族にも協力してもらい外出できる様支援している	利用者の体調に配慮しながら、弁当を作って花見やドライブに出かける等、季節を感じながら外出支援に取り組んでいる。利用者と一緒に近所のお店に買い物に出かけたり、病院受診の帰り道にドライブしたり、家族と一緒に外食に出かける等、利用者の気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者同士のトラブルを招く可能性があるので、ご家族了承のもと施設の金庫で全て管理している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は制限していないが、時間や回数を考慮し出来るだけ利用者の希望に沿うように支援している		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配っている。また匂いには特に気を付けており消臭スプレーを使用し不快なおいが残らない様になっている	季節の生花を飾り、利用者の似顔絵や笑顔の写真、小物を飾り、生活感や季節感を大切に温かみのある環境である。利用者や家族と相談しながら、整理整頓を行い、清掃に力を入れて取り組み、臭いや採光、音・温度・湿度に注意しながら快適に暮らせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているがそれ以外の時は思い思いに好きな場所で過ごされている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には使い慣れた物を持ってきていただくようお願いしている	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が使い慣れた身の回りの物や大切な物を、家族の協力で持ち込んでもらい、安心して過ごせるよう工夫している。また、こまめに換気や掃除を行う事で、利用者が気持ち良く過ごせる居室を目指している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2か所のトイレがあるが、排泄の仕方やトイレの使用方法がわからなくなり混乱される方は職員介助で一か所のトイレを使っている		